

CRSに関する基準を考慮した試験方法の検討について

令和5年度(2023)第3回自動車アセスメント評価検討会 資料6

背景

UNR129の適用開始に伴い、UNR44認可機種は2023年9月1日以降は事実上、製造不可となった。（継続生産されていた機種も含む）

CRSメーカーによっては8月頃までは工場出荷されているが、今後市場において、UNR129認可機種に置き換わっていくと推測される。

現行のCRSアセスメント試験方法はUNR44をベースに策定されていることから、UNR129に対応した試験方法にすることを検討する必要がある。

検討事項 CRSアセスメントの試験方法の検討 (UNR44→UNR129対応)

○前面衝突試験方法をUNR129に対応した試験方法への改正をおこなう

・テストベンチの改修 (UNR44仕様→UNR129仕様へ)

・ダミーの変更 (Pダミー → Qダミーへ変更)

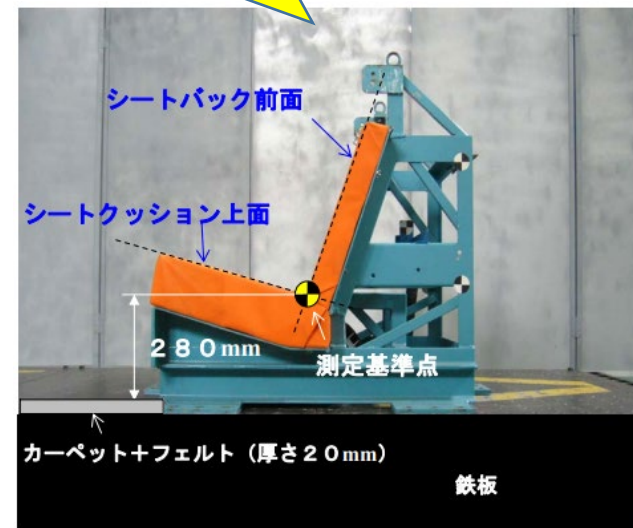
・上記の変更に伴う試験方法・評価方法の改正
(現行の試験方法・評価方法を様々な機種に対応させる)

○側面衝突試験の導入

・側突試験機の改修等をおこなう

・UNR129の速度条件、閾値等を検討

シートクッションの寸法・形状やシートバック取付角度等が異なる



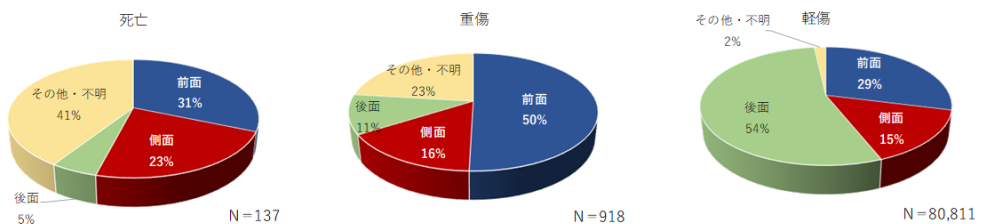
検討事項 CRSアセスメントの試験方法の検討 側面衝突試験の導入

傷害程度別，年少者[6歳未満]の衝突部位割合

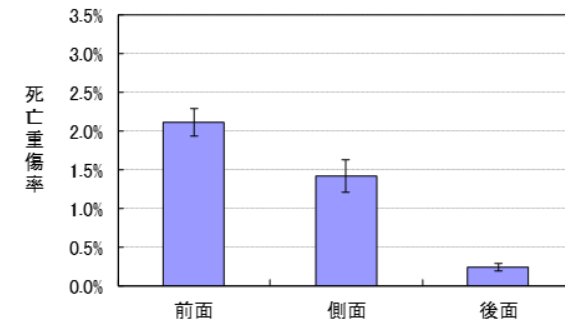
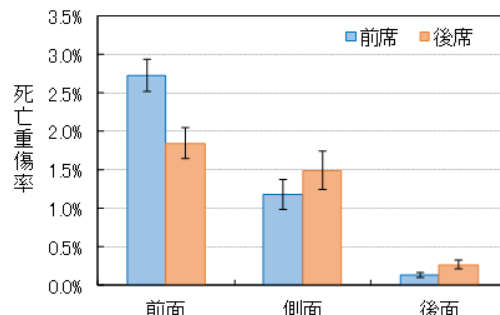
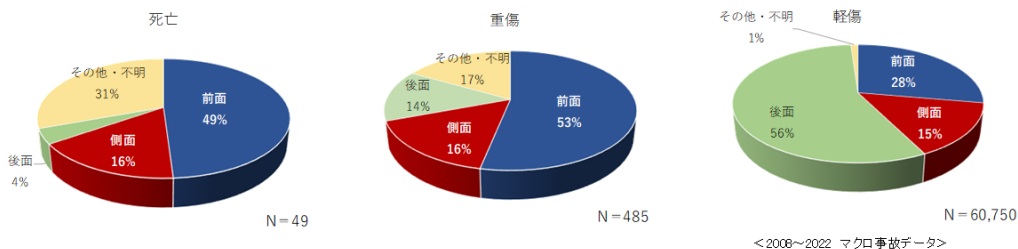
衝突部位別の年少者[6歳未満]の死亡重傷率

拘束装置不問

注) 前面：正面，右前，左前
側面：右側，左側
後面：後面，右後，左後



CRS使用



※令和5年度調査研究にて、年少者の交通事故尾に関する事故実態を調査（2008～2022年のマクロ事故データ）

今年度実施した調査研究の結果より、事故実態から年少者における衝突部位の割合と死亡・重傷率は、前面衝突に次いで側面衝突が高い。

なお、後面衝突は衝突部位の割合は軽傷時で高い割合を示すが、死亡・重傷率を見ると側面衝突よりもかなり低い。

また、海外のCRSアセスメントにおいても側面衝突を実施しており、従前より厳しくなった法規に対応しているCRSについて、JNCAPにおいても新たな試験法を導入し、CRSへの安全性能を評価することで、一般ユーザーへ更なる有益な情報提供をできることから、側面衝突試験法を導入することとしたい。

今後のスケジュールと試験法導入時期

■ 2024年度の調査研究

○ 前面衝突試験方法（UNR129対応）の検討

改修したテストベンチによる改正試験方法の複数のCRSを用いた検証実験と試験方法及び評価方法の修正案の策定

○ 側面衝突試験方法の検討

現状、考えられる課題についての検討、試験方法の原案策定とその検証実験の実施

■ 2024年度のCRS-WGの検討事項等

○ 前面衝突試験方法（UNR129対応）についての検討

○ 側面衝突試験方法（試験速度、閾値等）についての検討

■ 改正試験方法の導入時期

前面衝突試験方法、側面衝突試験方法ともに試験機器等の調達と試験法・評価法の検討が必要となることから、最短で2026年度以降の導入となる見込み